Sodick

2019年12月期　第２四半期　決算説明会　質疑応答概要

質疑応答概要（１）

Sodick

受注状況について

Ｑ１．4-6月の放電加工機の受注台数は前年同期割れでしたが、射出成形機も同様ですか？

Ａ１．成形機の受注は昨年と比べると低い状況ですが、第１四半期と比較すると4～6月は回復傾向にあります。

Ｑ２．中国ローカルの自動車関連で需要が落ちていることが一番の要因でしょうか？

Ａ２．中国の需要の状況ですが、自動車関連は確かに落ちています。電子部品関係も昨年、一昨年では受注を頂いていましたが、今期は需要が減少しています。

Ｑ３．上期は、米中貿易摩擦によりお客様の設備投資が先送りとありますが、ほぼ無期限先送りという事ですか？

Ａ３．引き合いがあったものに関して今は見合わせるという事です。タイミングをみてまた再開されるという事で、すでに再開されているところもあり、一部受注を頂いています。

Ｑ４．そのお客様は既に工場がある段階で発注をかけてきたのか、それとも建屋はあるが機械だけを遅らせているのか、どちらでしょうか？

Ａ４．基本的には、既に建屋はあるが、今は時期が悪いため投資を再開するまで待って欲しいという形だと思います。

質疑応答概要（２）

Sodick

今後の見通しについて

Q５．今後需要が増えそうな兆しのある業種はどこですか？

Ａ５．足元で増えてきそうなのは、 5G関係の基地局向けになります。

Q６．5G関係の設備投資は射出成形機のみですか？それとも放電加工機にも関係してきますか？

Ａ６．放電加工機にも関係しますが、製品と近いのは射出成形機になると思います。

Q７．射出成形機の5G関連は具体的にはどういったものがありますか？

Ａ７．基地局向けの光コネクタ関係などがあります。

Q８．9月からの米中追加関税によって、景気減速が懸念されると思います。
今後一段と厳しい状況になったとき、設備投資を見合わせるのか、来期以降を見据えて
投資は計画的に実施されるのか、利益追求と投資のバランスについて考え方を教えてください。

Ａ８．景気がもう一段二段悪化するような状況であれば、普通の経費削減だけでなく、
設備投資についても優先順位をつけた上で、実施する/しないの判断をしていく必要があると考えます。

Q９．放電加工機の中国での受注状況は、5～6月で減少していると思いますが、
下期は6月よりも回復する見通しということですか？

Ａ９．CIMT展（4月）の時は良い状況でしたが、5～6月で落ちてきました。一方で、新しく通信関係やレンズ関係も出てきているので、7～8月の受注は6月ほど落ちないと見込んでおります。
全体の受注としては、ものづくり補助金の採択待ち等あり、日本での受注が減少し、6月は190台程度となっていましたが、7月以降下期にかけては、200～240、250台程度/月の受注推移を想定しています。

質疑応答概要（３）

Sodick

通期業績予想修正について

Ｑ10．期初予想と比べて売上高、利益ともに減収減益とのことですが、期初の想定よりどのあたりが落ち込んだのか補足をお願いします。

Ａ10．期初計画では、中国での販売は、昨年比3割減と想定していましたが、結果として半減となっております。自動車が止まったことにより、ドイツに飛び火し欧州の売上高も落ちてしまったほか、中国の自動車関連も在庫調整の中で比較的堅調だった精密金型、成形機も売上高が落ちていきました。また、セラミックス部品でもお客様の投資判断が後ろにずれてしまったことなど、色々な要因が重なり全体的に落ち込んだと思われます。3月、4月の段階では回復しそうな流れでしたが、5月以降勢いがなくなってしまっている状況です。

Ｑ11．工作機械事業について、第2四半期の業績が売上高100億円で営業利益が6.7億円なのに対し、下期の売上高が200億円で営業利益は17億円となるご計画です。第2四半期と下期の利益の出方が異なる理由を教えてください。

Ａ11．第2四半期は、国内で補助金待ちの案件もあり、販売が伸びませんでした。国内の販売単価は海外より高く、利益率も高い製品が多いので、国内販売の減少により、第2四半期の利益は低水準となりました。下期に関しては落ち込んでいた国内販売が回復し、利益率も回復すると見込んでおります。

質疑応答概要（４）

Sodick

食品機械について

Ｑ12．上期に見込んでいたものが、下期以降に期ずれしているという事ですが、顧客の中でどういった判断があって期ずれしているのかその背景を教えてください。

Ａ12．中国のお客様を中心に、投資に慎重さが見られ、米中貿易摩擦の影響は否定できないと考えています。今期予想の受注はすでに取っているものですが、売上計上は検収の時期によります。

生産体制とコスト削減の取組について

Ｑ13．上期の増減要因分析を見ると、コスト削減に着手されている印象ですが、下期に向けて生産体制の見直しなどされる見通しはありますか？

Ａ13．新規採用を控えることにより、実質的に人員は減っている工場があります。
また、日本のゴールデンウィークや夏季休暇等の長期休暇に合わせて、海外の拠点においても稼働日を減らす対応を取っております。